

平成22年度ミニ県大会申し合わせ事項

2010年9月22日

スクール委員会競技部会

-※ (赤字) は、本年度改定部分

1. 競技規則

神奈川県ラグビーフットボール協会ミニラグビー競技規則に準ずる。

2. 優勝チームの決定について

勝ちを勝ち点3、引き分けを勝ち点1、負けを勝ち点0とし、

各ブロックの勝ち点合計数の最も多いチームを優勝とする。

勝ち点合計数の最も多いチームが複数の場合は、複数チームを優勝とする。

3. 選手エントリー制度

各スクール同学年において、複数チームをエントリーする場合は、別紙「県大会の複数チームエントリー及び代理出場について」に基づき、「選手エントリー票」を提出する。

同学年各チームの人数は、最も多いチームと最も少ないチームの差は2名を越えないように登録する。

ケガや欠席のため代理の選手を出場させる場合は、チームメンバーを全員参加させた後、なおメンバーが不足した場合のみ代理出場を認める。

代理出場は、必ず試合前のブリーフィング時に相手チームの許可を得る。

代理出場により戦力アップにならないようにする。

試合中の負傷退場等での選手交代は、エントリー以外の代理選手よりも、自チームですでに出場し交代された選手を優先させる。

やむをえず他チームの代理選手を出場させる場合は、レフリーと相手チームの許可を得る。

許可を求められたチームは、特別な理由のない場合は、承諾するものとする。

試合前の整列時に、当該チーム選手及び許可を受けた選手は全員整列する。

4. 試合日程の変更依頼について

試合日程発表の後には、試合日程の変更依頼は原則として受け付けない。

都合のつかない場合は、当事者チーム同士で調整する（場所、日時、レフリー等）。

調整不可の場合は、参加できないチームを不戦敗とする。

5. 各試合会場でのルール

駐車可否、試合前の練習方法、その他各会場での注意事項は厳守する。

試合当日に注意された事項については、あとから到着する学年に責任を持って伝える。

6. 荷物の置き場及び忘れ物、ゴミの持ち帰りについて

荷物の置き場は、各スクール全学年同じエリアで行い、忘れ物とゴミを持ち帰る。

グラウンドを退場する最終の学年は、忘れ物とゴミをチェックして、本部に「〇〇スクール忘れ物、ゴミなし」を報告する。

7. 試合前の練習場所

A面とB面の間のエリアは、次の試合の練習場所とする。

同エリアは、次の試合の選手、指導員、レフリー及び競技委員、CS委員、グラウンド管理係以外のものは立ち入らない。

同エリアからの指導、応援は禁止する。

8. コーチ、ウォーター係、**チームカメラマン**

サイドコーチは、各チーム1名とし、定められた区域内から、プレーヤーに対して建設的な指示、助言を行える。

ヒステリックに怒鳴ったり、レフリーの判定に異議を唱えたりすることは禁止する。

建設的でない言動や進行の妨げになると判断した場合は、レフリーはじめ競技委員、CS委員が注意する、

コーチはそれに従わなければならない。

コーチは、試合中にグラウンドに入って指示することはできない（ゲーム中断時、ウォーターブレイク時を含む）。

指示は自陣のベンチ側とし、相手側ベンチ前には行かない。

父兄がウォーター係を行う場合は、一般の方との区別を明らかにするため指導員と同様の服装をするか、ビブスを着用する。

応援席以外で撮影を希望するチームカメラマンは、一般の方との区別を明らかにするためビブス着用やIDカードを首からさげる等でそれとわかる格好をし、事前に本部席にチームカメラマンであることを伝える。

また、チームカメラマンの立ち入り場所は、応援席とインゴール裏とし、試合や試合前練習の妨げにならないようにする。チームカメラマンは1試合につき1チーム当たり1名とする。

タッチジャッジ及びチームカメラマンによる指示、助言は、厳禁とする。

9. メディカルサポーターについて

メディカルサポーターは、各チームで確保するように努める。

けが事故等の発生時はチーム以外のメディカル関係者についても対応する様配慮する。

子供のけがに迅速に対応することを目的とし、試合中にかかわらずコーチがグラウンドに入ってもよい。

10. タッチライン付近について

タッチラインより、**1.5m**までのエリアは、危険防止や、タッチジャッジのスペース確保のため、**試合中はタッチジャッジ以外の者は、立ち入らない。**

11. 選手交代について

選手の交代は、交代人数を制限しない。

ただし、出血やけがなどの一時交代（10分以内）と交代選手がいない場合を除き一度交代した選手は原則再出場させない。

交代の際はレフリーに申告する。

12. スコアカード

レフリーのスコアカードは、ミニCS部会で作成された所定のものを使用する（別紙）。
レフリーは、同スコアカードに必要事項を記入、署名したのち、本部席に提出する。
スコアカードに訂正がある場合は、当該レフリーが行う。

13. 点数の確認

試合終了後、両スクールベンチの間で、両チームのサイドコーチは、点数の確認をレフリーに行う。
また、本部席の試合結果の掲示を確認する。
後日の点数訂正や再確認の申し出は、原則として受け付けない。

14. アフターマッチファンクション

- ① 試合終了後、グラウンドにて整列し互いに礼を行う、両軍ベンチ前に整列して礼を行う。
- ② 給水し、持ち物の忘れ物がないか確認後、アフターマッチファンクションの場所に移動する。アフターマッチファンクションを行う場所はあらかじめ設定し、ブリーフィングに確認する。サイドコーチは、場所を移動完了するまでに点数の確認をレフリーに行う。
- ③ レフリーは、両チームの選手、サイドコーチがそろったことを確認して、選手を着座させる。レフリーの立ち位置は、選手から見やすいように太陽を正面に見る向きに立つのが望ましい。

以下、レフリー主導でアフターマッチファンクションを進める。

- ④ レフリーは、危険なプレー、好ましいプレー、ルールに対する助言などを簡潔でわかりやすく、親しみやすい言葉遣いと表情で選手に伝える。
- ⑤ 両チームのキャプテンは、自己紹介のあと、試合の感想を話す。
レフリー、指導員は、名前の復唱や内容について必要に応じフォローする。
- ⑥ 両チームのサイドコーチは、自己紹介のあと、試合の感想を話す。
特に相手チームの良かったプレーに着目して、できるだけ具体的に評価する。
- ⑦ 選手、指導員は、起立、整列して互いに礼をする。最後に握手をする。

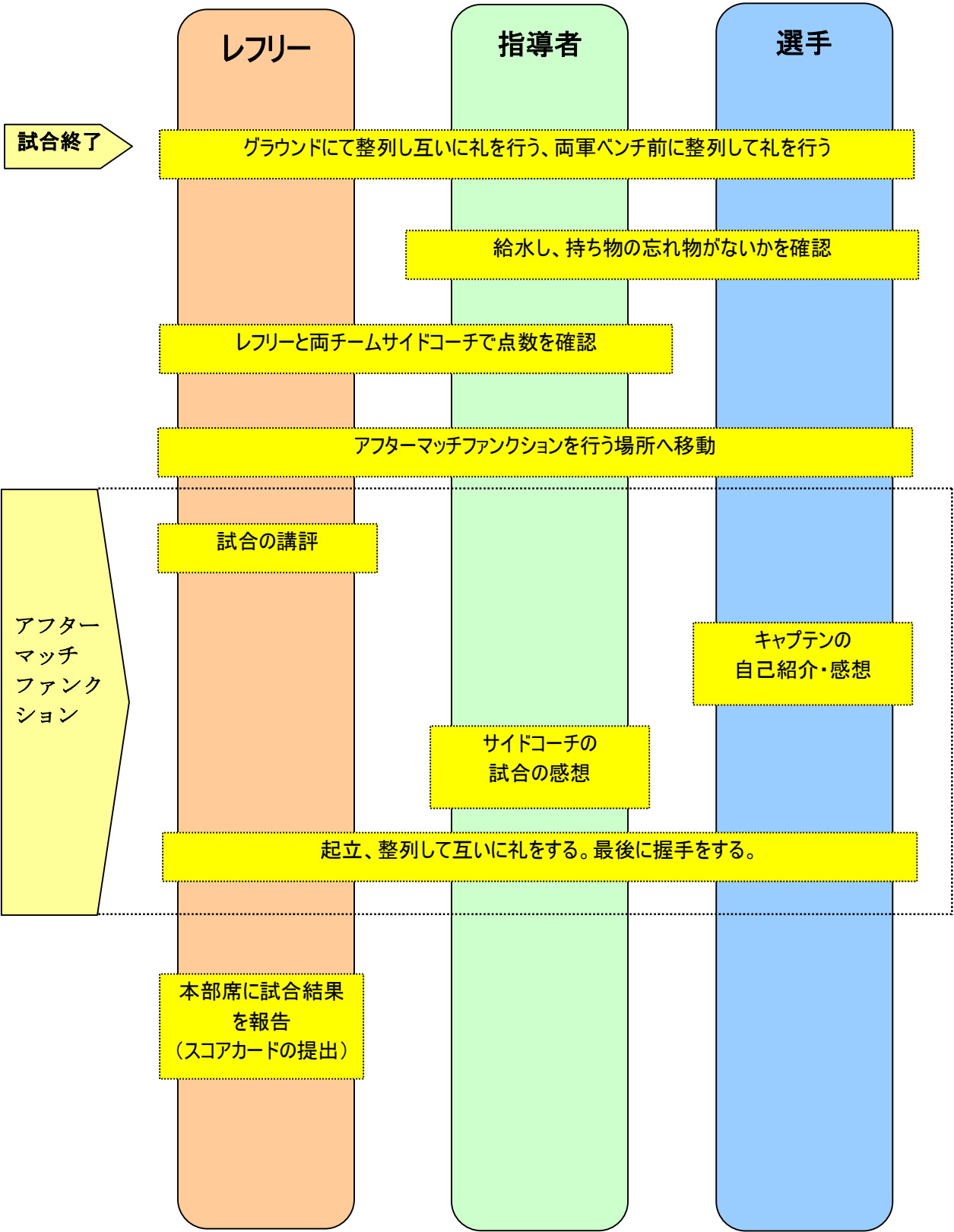
アフターマッチファンクションの目的

- ① 試合終了後、両チームの選手はじめ関係者が、敵味方なく相互の健闘を讃え、尊重しあい、親交を深めあうことで、ミニラグビーにおいてラグビーの「ノーサイド」精神を培う。
- ② レフリーや相手チームより、試合中のプレーの評価、指摘をもらうことで、正しくプレーするフェアプレイ精神を養い、技術レベルの向上を図る。

スクール指導者へお願い

アフターマッチファンクションの実施にあたり、「ラグビーは相手がいるからできる」という理念のもと、選手には、相手チームに感謝すること、ラグビーする仲間同士の友情を深めること、の意義などをぜひご指導ください。
また、保護者にも、相手のミスを喜ばない、良いプレーには拍手を送る、などの応援マナーについて機会あるごとに、すべての保護者にお伝えいただきたく願います。

○ 試合終了からアフターマッチファンクションへの流れ



○ 標準的なグラウンドでの立ち入り範囲

グラウンド会場によって異なりますので、グラウンド管理スクールからの案内、また当日は本部席にてご確認ください。

